

住み良い地域 未来へ発信

第6期耕人塾が開講式 17中学・高校から35人

石巻地方の中高生が人間力を育む「耕人塾」(塾長・木村民男石巻専修大学人間学部教授)の第6期が17日、石巻専修大学で開講した。本年度は17中学・高校

から計35人が受講し、運営・指導・協力者らを含めて計176人が子どもたちの学びを支える。開講式のあいさつで木村塾長は「人間力を磨いて地域に貢献

できる人になってほしい。楽しみながら精一杯頑張りますよ」と呼び掛けた。

本年度も活動のテーマは「世界に誇れる石巻地域にしよ」としながら、これまでの塾内での活動を地域に広げていくことを期待してサブテーマに「発信！未来へ」を掲げた。12月まで座学と実践を展開し、徳・体・知の人間力を磨いていく。

特に実践では「あいさつ・清掃・ゴミ拾い」を軸に、石巻川開き祭りでのゴミステーションへの協力などにも取り組んでいく。

開講式でははじめに木村塾長が「本物の復興へは若い人材の育成が必要。多くの人の支

えて自らを成長させてほしい」と学びの意義を強調。その後、受講の上での心構えや自己紹介のオリエンテーションを行い、塾生らが互いに顔を合わせた。

また、川開き祭りでの実践に向けて、実際に活動している石巻市環境保全リーダーの会の岩淵興一会長らによる講話にも耳を傾けた。「エコステーションへの思い」を主題に、受講生が住みよい地域づくりへの地道な活動の真意に触れ、今後への意欲を強くしていた。

平成24年に開講した耕人塾は、石巻専修大、県と石巻地方2市1町の教育委員会が後援。運営指導には同大の学生や小中学校教諭のほか、民間の企業・団体からも参加している。開講後の修了生は5年間で延べ100人以上となっている。



名刺交換に似せた自己紹介で互いに受講生らが顔合わせ